



南房総のハズシ

〔発行〕
南房総教育事務所
令和7年 6月20日
第10号
文責 学力向上班

第4期千葉県教育振興基本計画策定 ～ 人生を主体的に切り拓くための学びの確立 ～

第4期千葉県教育振興基本計画が策定されました。基本目標2「未来を切り拓く『人』の育成」の施策5において「人生を主体的に切り拓くための学びの確立」が示されています。施策実施指標の一つは「授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ児童生徒の割合」が全国平均以上となることです。より一層の授業改善に取り組んでいきましょう。

授業改善に向けて 南房総教育事務所指導室からの2つの提案

【提案① 実践モデルプログラムを活用しましょう】

「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム

実践モデルプログラムは、主体的・対話的で深い学びを実現し、児童生徒が、思考し、表現する力を高めることを目指した、授業づくりの一つのモデルです。



単元計画や1単位時間の授業計画の中に、「見いだす」「自分で取り組む」「広げ深める」「まとめあげる」の4つの過程を位置づけ、授業づくりを行います。

「見いだす」過程

主体的な学びを生み出すためには、4つの過程の中でも「見いだす」過程が重要です。この過程を例に、授業づくりを考えてみましょう。



児童生徒が自ら問いを見いだしたり、解決する課題を明確にしたりできるような手立てを考えましょう。



【小学校5年生算数「速さ」の例】

児童生徒が自ら疑問をもつような資料や素材を準備する。



すごい！次男くんは、長男くんより足が速いんだね。三男くんも長男くんと同じ速さなんだね。

児童生徒の疑問や明らかにしていく課題を明確にする発問を準備する。

何かおかしいなあ…

何が疑問なのかな？みんなの疑問を整理してみましょう。

だって…

なるほど。では、今日はどんなことを学んでいきますか。

小学校低・中学年	小学校高学年・中学校・高等学校
疑問をもつ 「あれ？不思議だな」と思ったことは何ですか？ 「どうして〇〇になったのかな」 「答えは〇〇だ！うんそうだ」※既習の内容を振り返る 「うーん困った、どうしよう」※既習の内容を振り返る	疑問をもつ 「〇〇の原因はどこにあるのでしょうか」 「規則性はありそうですか」 「〇〇の観点から見るとどうなるのでしょうか」 「日頃、〇〇〇〇と考えたことはありませんか」
既習の内容や方法を振り返る 「ええと、前回は…」※既習の内容を振り返る 「前回の学習と比べて、気付くことはありますか」 「前回は〇〇だったけど、今回はどうですか」	既習の内容や方法を振り返る 「前回使った考え方は何でしたか」 「前回分かったことは、今回生かせるのでしょうか」
課題を明確にする（学習の見通しをもつ） 「みんなの疑問を整理してみましょう」 「さあ、今日はどんなことを学んでいきますか」 「〇〇できるようにしましょう」※学習・能力を育む	課題を明確にする（学習の見通しをもつ） 「この学習のゴールを〇〇としましょう！」 「よし！今日の課題や目標は何にしましょうか」 「〇〇できるようにしましょう」※学習・能力を育む

「実践モデルプログラム（一括ダウンロード版）」には、授業ですぐに使える「主体的・対話的で深い学び」につなげることができる発問等の具体的な例が「授業の前に」「見いだす」「自分で取り組む」「広げ深める」「まとめあげる」のプロセスごとに小学校低・中学年と小学校高学年・中学校・高等学校に分けて掲載されています。参考にしてください。





実践モデルプログラム活用の留意点



「実践モデルプログラム」は、毎時間4つの過程全てを行うことを推奨するものではありません。毎時間全てを行うと、かえって形式的な授業となってしまう可能性があります。1単位時間で行う場合もあれば、複数時間で行う場合もあり、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した上で行います。

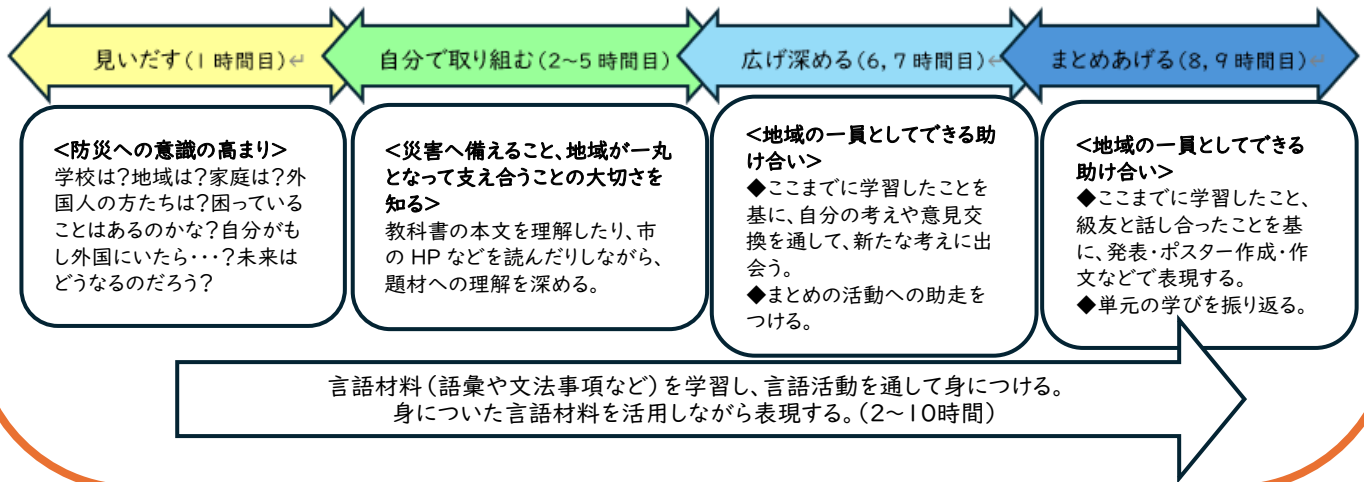
大切なことは、単元計画や授業計画に意図的・計画的に「見いだす」「自分で取り組む」「広げ深める」「まとめあげる」を位置付けることです。

【単元計画の中に4つの過程を位置づけた例】

中学校第2学年 英語科 Unit4 How can we help each other in a disaster? (New Horizon 2, 東京書籍)

題材の概要: 防災・安全への関心を高め、地域の一員として防災に取り組む意識を持つ。

展開時数 : 8～10時間



【提案② セルフチェックシートを活用しましょう】

「授業改善のためのセルフチェックシート」は、先生方が授業を振り返り、自らの課題を意識できるよう、実践モデルプログラムに基づいて、南房総教育事務所が独自に作成したものです。



本時で行った過程に☑を入れて、その過程の振り返りを行います。

児童生徒の姿から、それぞれの過程での指導を評価します。

目指す児童生徒の姿に到達しなかったという場合に、<手立てのヒント>を参考にどうすればよかったのかを考えましょう。

また、<手立てのヒント>や<改善のヒント>は、授業の振り返りだけでなく、授業の計画を立てる際にも活用できます。それぞれの過程において、資質・能力の育成、目指す児童生徒の姿に迫るために、どのような発問や資料、活動等を準備すればよいか考えましょう。

授業改善のための「セルフチェックシート」R4～				
月	日()	年 組	指導者	
教科	単 元 名			
4: 十分できた 3: 概ねできた 2: あまりできなかった 1: できなかった				
授業前	指導者は、本時(本単元)を通して資質・能力が身に付いた児童生徒の姿をイメージしましたか? 4・3・2・1			
授業中	☐ 改善のヒント ・本時(本単元)で目指す児童生徒の具体的な姿を、目標に基づいて想定する。 ・児童生徒が働かせるべき「見方・考え方」を理解する。 ・児童生徒に資質・能力が身に付いたか評価する手立てを準備する。			
授業後	児童生徒が自ら問いを見いだしたり、解決していく課題を明確にしたりしていましたか? 4・3・2・1			
本時で行った過程	☐ 手立てのヒント 児童生徒が自ら疑問をもち「主体的な学び」を実現することができるような資料や発問を準備する。 ・自分の考えを根拠をもとに伝えられるよう、伝えるときに意識すべきことを指導する。			
振り返り	児童生徒が自分の考えを形成したり、思いや考えを基に創造したりすることができましたか? 4・3・2・1			
まとめ	☐ 手立てのヒント ・課題を解決する見通しをもてるように、既習の内容との相違点や学習のめあてを児童生徒とともに確認する。 ・「見方・考え方」を働かせながら必要な情報を収集して調べることができるよう、ICT環境や資料等を用意する。			
振り返り	児童生徒が多様な考えを理解したり、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、新たな考えに気付いたりしましたか? 4・3・2・1			
振り返り	☐ 手立てのヒント ・自分の考えを根拠をもとに伝えられるよう、伝えるときに意識すべきことを指導する。 ・「対話的な学び」が実現できるように、児童生徒同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等の場面を設定する。			
振り返り	児童生徒が学んだことを確実に身に付けるとともに、新たな疑問をもちましたか? 4・3・2・1			
振り返り	☐ 手立てのヒント ・学習活動や思考の過程を振り返り、「自分の言葉で学習のまとめを書く」場面を設定する。 ・学んだことを確実に身に付けるために、練習問題に取り組む。 ・「見方・考え方」を今後の学習や生活にどのように生かすかを考える場面を設定する。 ・学習活動を次のために「主体的な学び」が実現できるように、新たな疑問をもつような発問をする。			

(授業改善メモ)

大切なことは、授業実践を振り返り、分かったことを次の授業づくりに生かすことです。「資質・能力の育成につながったか」という視点で、児童生徒の具体的な授業中の姿や発言をもとに実践を振り返り、「次の授業ではどうすればよいか」を考えましょう。ときには校内で相互に授業参観を行い、授業後に意見交換を行うなど、組織的・継続的に取組を積み重ね、授業改善につなげましょう。